ミューズ 第56号

平和のための博物館市民ネットワーク通信

編集委員：福島在行・清水郁子／編集協力：山根和代・安斎育郎
発行者：平和のための博物館市民ネットワーク
発行日：2024年6月27日
連絡先：musejapankyoto@gmail.com
翻　訳：山根和代
イラスト：戸崎恵理子& Pegge Patten

企画展「生誕 140 年、石橋湛山と山梨」

山梨平和ミュージアム　理事長　浅川　保

山梨平和ミュージアムでは、昨秋からの企画展「Fujiと沖縄を考える」に代わって、この４月から新しい企画展「生誕 140 年、石橋湛山と山梨」を開催しています。 昨年が没後 50 年、今年は、石橋湛山（1884～1973）の生誕 140 年の節目の年にあたります。底なしの自民党裏金疑惑に見られるような劣化する政治状況の中で、改めて「20 世紀最高の言論人」とも言われる湛山への関心、評価が高まっています。

この度の企画展では、こうした湛山の原点とも言うべき山梨で過ごした幼少～青年期、そして戦後の湛山と山梨の関わりを中心に、次のような内容で展示しています。

❶ 山梨で生活し育つ（年表を中心に）、❷ 昌福寺と長遠寺での小学生時代、❸ 中学時代の湛山（『校友会雑誌』の「石田三成論」「湛山随筆」で権力者ではなく、石田三成、中江兆民等の理や義を追求した人物を高く評価したこと、大島正健校長との出会い影響等々）、❹ 戦後の湛山と山梨（選挙区は、山梨でなく静岡２区だった理由等）。また、国会図書館憲政資料室所蔵の望月日謙、小林一三、中村星湖から甲府一高新聞等の貴重な資料（コピー）も展示しております。

９月末日まで開催予定。ホームページを見てきた等この所、県外からの見学者が多くなっています。

erico

山日新聞（2024年4月20日）

甲府で「生誕140年 石橋湛山」展

山梨との関わり パネルで紹介

石橋湛山と山梨の関わりをパネルと資料で紹介している企画展
＝甲府・山梨平和ミュージアム

山梨注目展

山梨県で青少年期を過ごし、言論人、経済人として活躍、第55代首相となった石橋湛山（1884～1973年）の歩みを紹介する企画展「生誕140年、石橋湛山と山梨」が、甲府市朝気1丁目の山梨平和ミュージアムで開かれている。生まれ育った山梨との関わりをパネルと資料で紹介している。

没後50年を記念した昨年に続き、生誕140年を記念して開催。「中学生の湛山が、石田三成と中江兆民を高く評価したことの意味は？」「なぜ湛山は静岡から立候補したか？」などの質問に回答する形で湛山の生涯を解説している。

湛山が山梨尋常中（現甲府一高）在学時に発表した寄稿文から、青年期の思想を深掘り。4、5年次に校友会の活動に取り組んだ湛山は「校友会雑誌」に石田三成や自由民権運動をリードした中江兆民についての小論を執筆した。権力者ではなく、中江や三成を評価したことについて、同ミュージアムの浅川保理事長は「敗れた側の、理や義を追求した人物を評価するスタンスは、その後も貫いている」と説明する。

山梨滞在時の日記など国立国会図書館憲政資料室が所蔵する資料の複製を展示。湛山が総理大臣に就任した際の祝賀会で、選挙活動を支えたとされる南アルプス市出身の名取栄一が述べた祝辞、晩年の湛山が左手で書いた手紙の草稿や、総理就任を受けて甲府一高が発刊した「甲府一高新聞」など、多彩な資料約50点が並んでいる。

企画展は9月30日まで。火・水曜日休館。午後0時半～5時。〈田辺彩子〉

「松下真理子　人間動物」展を開催

原爆の図丸木美術館学芸員
岡村幸宣

原爆の図丸木美術館では、企画展「松下真理子　人間動物」を 5 月 11 日から 7 月 7 日までの会期で開催しています。https://marukigallery.jp/7600/

松下真理子は、昨年の秋にガザへの空爆が開始される直前までパレスチナに滞在していた画家です。今回の展覧会は、本人の強い希望により、ガザで奪われていく命への応答として企画されました。「人間動物」というタイトルは、イスラエルの国防相がガザを完全封鎖する際に述べた言葉をもとにしています。「檻」に追い込まれ「動物」のような扱いを受ける人間たちへの想いが、段ボールや布を用いた作品から読みとれます。会場は、画家自身の発案で、天窓を開放し、3 つの部屋のうち 2 部屋はスポットライトを使わずに自然光だけで作品を見せることにしました。天候によってやわらかな光は移ろい続けます。長い歳月による建物の傷みによって雨漏りのする場所には、小さな器が置かれています。わずかな雨も貴重な水として生かされるパレスチナの人たちの生活が想起される作品ですが、世界という大きな器のあちこちで生じている傷みをそっと手当てするという意志も感じられます。

常設展示の「原爆の図」と接続しつつ、現在進行形の世界の暴力への「窓」として、多くの来館者の想像力を刺激することを願っています。

平和記念館近況

事務局長・理事：芹沢昇雄

昨年 12 月に 4 年ぶりに満蒙開拓平和記念館で開かれた『平和のための博物館全国ネットワーク』の全国交流会に参加させて戴き、有意義な発表や交流をさせて戴きました。

昨年 10 月には当記念館初代理事長の故仁木ふみ子（日教組本部婦人部長）の功績展示を 2 ヶ月開催しました。また「立命館大学国際平和ミュージアム」のリニューアル展示の資料探しに、学芸員が来館下さり資料提供しました。

記念館の来館者は年に 100 数十人ですが、研究者やジャーナリストも来館しています。2 月には中国中央ＴＶ（CCTV）が 3 度目の取材に来館、その後『人民中国』も 2 度目の取材に来ました。

研究者は過日『ハンギョレ新聞』の金・元編集長が来館し、その後ハングルで中帰連の事を書いた『私は戦争犯罪人です』を読んで中帰連を知ったと、韓国の研究者が来館しました。一組は女性 2 人で来館し、その後、男性 3 人の研究者も来館しました。

中帰連千葉支部が匝瑳市の妙福寺に建立した『中帰連碑』（謝罪碑）が在り、毎年境内の藤の花の咲く頃の 5 月 5 日に『観藤会』と称して仲間が集います。今年も 15 人が集い、中帰連を偲び思い出を語り思いを新たにしました。

最近、出張講演要請があり日帰り可能な範囲で受け入れています。

記念館には多くの資料がありますが「映像資料」も 100 本以上在り、保存しているだけでは勿体ないとので、今年から偶数月の第三土曜日の午後に「ビデオ上映会」も開催しています。

【NPO 中帰連平和記念館】）
TEL&FAX：049-236-4711（水・土・日）
E-mail：npo-kinenkan@nifty.com
ＨＰ：http://npo-chuukiren.jimdo.com/
（臨時休館あり「事前連絡」お願いします）

ピースウェイブのイベント

平和資料館「草の家」副館長　出原恵三

恒例のピースウェーブのイベントのご紹介をします。是非お越しください。

Event/イベント	Content/内容
講演会　『イラク戦争20年と日本国憲法』	イラク戦争から21年。自衛隊のイラク派兵は違憲とする判決となりましたが、自衛隊は変わらず海外派兵されています。川口創弁護士による講演。
第42回平和七夕まつり	平和への願いを込めた折り鶴が鮮やかに商店街を彩ります。県内の小・中学校、福祉施設、民主団体等、市民参加の催し。
ピースウェイブ　スタートの集い	平和七夕まつりの折り鶴を吊り上げた後、ピースウェイブの始まりを宣言する歌声の集い。
第40回高知平和美術展 第46回　戦争と平和を考える資料展	絵、書、彫塑などの作品に思いを込めて表現します。 「郷土が危ない －戦後79年しのびよる軍事化－ 」をテーマに、貴重な資料や写真、遺物などを展示。
第20回高知市平和祈念式追悼集会	高知大空襲の犠牲者の方々の追悼と平和を祈念する平和祈念式
2024 ピースアクション in こうち	「平和を願う音色が世界にとどきますように！」　広島で被爆した植野克彦さんのお話、被爆ピアノで、コンポーザーピアニスト朝香智子さんや高知小学校合唱部、一般公募のみなさんとつくるコンサート。
平和映画祭	日本政府主導のもと急速な軍事要塞化が進んでいる南西諸島。沖縄だけにとどまらない軍事要塞化の実態を描くドキュメント映画「戦雲」(いくさふむ)
戦争遺跡 掩体見学会	南国市前浜に残る7基の飛行機掩体について説明を聞きながら巡ります。
灯ろう流し	手作りの灯ろうに平和への祈りをたくして
第37回反核平和コンサート	「みんなで平和を考え、みんなで作りあげるコンサート」を目指して、多彩な歌声・ダンス・太鼓などに想いをのせて♪
高知市民劇場第369回例会 トム・プロジェクト公演 「風を打つ」	工場排出の水銀による公害病・水俣病による差別にさらされ傷ついた家族の絆が再生する、故杉本栄子さん雄さん夫妻と家族をモデルにした舞台。

詳細はHPをご覧ください。http://www.maroon.dti.ne.jp/kusanoie/index.html

長崎人権平和資料館として再出発しました

理事長　崎山昇

当資料館は、１９９５年１０月１日「岡まさはる記念長崎平和資料館」として設立されました。しかし、資料館の名称に冠していた平和運動家の故・岡正治が、生前、性暴力に及んでいたことが、被害者の方の証言により明らかになりました。理事会の中には２０２０年の時点で情報を得ていた者がいたにも関わらず、対応が遅れたことについて理事会として被害者の方に深くお詫びをしました。その上で、当資料館はいかなる性暴力も容認しないこと、今回の件を受け、資料館の名称変更や展示の見直しを含む対応を行っていくこと、そのために資料館

を２０２３年１０月１０日以降、しばらく休館すること、当資料館の社会的責任としてこの事実を公表すること、被害者のプライバシーを守り、二次被害の防止に努めることを表明しました。その後、名称を「長崎人権平和資料館」に変更し、会員の皆さんをはじめ多くの支援者の皆さんのご協力で、２０２４年４月１日に再出発しました。今回の性暴力問題を受け、展示内容の見直しによって、新たに「性差別と性暴力」コーナーを設けました。再出発にあたって、当資料館は、これまでどおり史実に基づいて日本の加害責任を訴え、当資料館を訪れる一人ひとりが、戦後補償の実現と非戦の誓いのために献身することをめざすとともに、日本社会における性暴力問題の改善、二次被害の防止につながるようにと決意を新たにしています。

ひめゆり平和祈念資料館
開館 35 周年記念移動展「ひめゆりと久米島」開催中

学芸員　前泊克美

5 月 31 日より、久米島博物館にて、開館 35 周年記念移動展「ひめゆりと久米島」を開催中です。移動展 3 か所目、初の離島開催となります。

展示は 2 部構成で、前半は「ひめゆりの沖縄戦」、後半の「久米島出身のひめゆりの生徒たち」では久米島出身の生徒 10 人の性格やエピソードなどを 1 人ずつ紹介しています。生徒たちは、将来に夢や希望を持ち、13～15 歳で島を離れ、那覇で学校生活を送っていました。しかし、沖縄戦で 10 人中 5 人が亡くなり、1 人は戦争後遺症で戦後死亡しました。

生徒を 1 人ずつ紹介したことで、「実際にそこに存在したその人」であり、「自分の周りにいる家族や友人のように身近に感じられ」たとの感想が寄せられました。ひめゆりの生徒たちは、当時、沖縄全県下から進学していましたが、現在では、そのことはあまり知られていません。2022 年に移動展を開催した今帰仁村や読谷村でも、自分たちの地域にひめゆりの生徒がいたと初めて知ったことや、そのことでより身近に感じたという感想がありました。

動員されたひめゆりの生徒の過半数が戦場で亡くなりました。生き残った生徒たちは、亡くなった友達のこ

とを抱えて生き続けました。「戦場になったらどういうことになるか知ったら、戦争をしたい人はいない」。生き残ったひめゆりの生徒の言葉です。久米島展を通して改めて地域の戦争を知り、戦争が起こったらどうなるかを考える機会にしてくれたらと願っています。

普天間館長によるギャラリートーク

伝言館(福島)でパッチワーク・キルト展開催中

館長　安斎育郎

東京電力福島第二原発から 6 km 程に位置する平和博物館「ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ伝言館」は、2021 年 3 月 11 日に開設されて以来、様々なテーマで特別展を開催していますが、2024 年 6 月 1 日～8 月 3 日には「安斎喜美江と仲間たちのパッチワーク・キルト展」が開かれ、6 月 22 日には楢葉町やいわき市から 11 人が参加して安齋喜美江さんの指導の下でワークショップが開かれました。原発問題についての常設展示場に隣接する未来館には、制作に 9 か月～1 年もかかった安齋喜美江さんや辻井幸子さんの 10 点程の大作とともに、仲間たちの大小の作品が展示され、来館者を楽しませています。

会場には伝言館館長補佐の早川千枝子さんがサポートしているしょうがい者支援施設「ふたばの里」のメンバーの作品も展示・販売され、6 月 22 日には地元・楢葉町やいわき市から 11 人が参加してワークショップが開かれました。安齋喜美江さんの指導の下で、和気あいあいと 2 時間余りパッチワークの小物づくりに取り組みました。

伝言館は 2024 年度の後半には、❶核兵器禁止条約のいま、❷阻止して良かった！珠洲原発、❸宝鏡寺の太平洋戦争、の 3 つの特別展を予定しています。

名古屋市の 5.14「なごや平和の日」の制定の意義と課題

丸　山　　豊

≪歴史≫

名古屋市は今年 3 月に、毎年 5 月 14 日を「なごや平和の日」と制定しました。「尾張名古屋は城で持つ」と威容を誇った名古屋城が空襲で焼失した 1945 年 5 月 14 日としたわけです。5.14 空襲では名古屋が誇る金シャチ城が燃え崩れ落ちていく姿に市民は言葉を失い、手を合わせたといわれています。名古屋だけで 63 回も空襲を受け約 8000 人以上の市民が犠牲となりました。いわば空襲犠牲者の追悼と平和の意義を考える大切な日となり評価できます。

名古屋への本格的空襲は 1931 年から始まる 15 年アジア太平洋戦争の最終段階 1944 年 12 月から敗戦までの約 9 ヶ月間に過ぎません。この間 63 回にわたり徹底的に名古屋は狙われました。ところが日本は中国民衆を 7 年以上前から空爆攻撃を繰り返し、多くの中国市民を犠牲にしました。これら上海、南京、重慶への空爆（渡洋爆撃）は、名古屋の三菱重工業を中心とした航空機関連軍需工場で、学徒も動員され製造された攻撃爆撃機、戦闘機でした。

これは一種の「ブーメラン現象」とも考えられ、空襲も被害と加害の両面を見直す必要があります。

「なごや平和の日」はその被害、加害の両面から「平和」を考える日にすべきでしょう。

≪参考資料≫

なごや平和の日条例（令和 6 年 4 月 1 日制定）

第 1 条　この条例は、なごや平和の日を定め、名古屋空襲により犠牲になられた方々を悼むとともに、悲惨な戦争の体験・記憶を後世に語り継ぐことにより、市民の恒久平和の実現を希求する意　　識の醸成を図り、もって平和な社会の発展に寄与することを目的とする。

第２条　なごや平和の日は、5 月 14 日とする。
第３条　市及び市民は、なごや平和の日を中心に、平和意識の醸成を図るための取組を行う。

≪社会を動かした高校生の活動≫

「平和の日」制定に向けた運動は、戦時中、学徒動員で多くの犠牲者を出した東邦高等学校の生徒たちが 2014 年から取り組んだ活動で、他校の生徒も巻き込んで 10 年間も声をあげ続け、ついに本年 3 月 21 日に「なごや平和の日」として市議会で可決、実現させました。まさに生徒の自治力、歴史教育、主権者教育の手本です。2024 年 5 月 14 日初の記念式典が開催され、東邦高校の生徒も招かれこう述べています。

「戦争の記憶を風化させない」「国や文化の違いを受け止め、互いに認め合う世界に」「平和な世界を作っていく」「声をあげ続ける」とそれぞれの自分の言葉で堂々とメッセージを発しました。彼らは、ウクライナやガザを見つめ未来に向けての責任を果たす決意を示したのです。多くの市民は自らを省み、若い世代の平和を願う行動と発言に勇気づけられました。メディアも「高校生が社会を動かした」と報じました。

≪河村たかし名古屋市長の発言≫

（これに先立ち 4 月 22 日）新聞は「なごや平和の日」に関する河村たかし名古屋市長の発言を大きくスクープしました。報道によると、市長は「祖国のために命を捨てるのは高度な道徳的行為だ」「国に命を捧げるのは大変勇気あること」と言い放ち、その行為に感謝の必要も説きました。これが本音なら「なごや平和の日」の制定理念が疑われます。

まず、戦争を賛美するような発言は憲法精神に反します。「祖国のために命を捨てるのは高度な道徳的行為」この発言は戦前、特攻に出撃する若者たちへの賛辞と同じです。また最近ではロシアのプーチン大統領も同様なことを言いました。権力を有する首長の「戦争肯定」と受け取られかねない河村市長の発言は、今までの南京虐殺否定、愛知トリエンナーレ事件の延長にあると批判されても仕方ありません。名古屋市長として「戦争を起こさない、若者を戦場に送らない」との平和メッセージを期待していた市民には失望感を抱かせました。歴史を学んだ高校生はどう受け止めたのでしょう。

＊式典で市長は「東邦高校の生徒の皆さん、本当によく頑張りました。」と一応称えてはいます。

≪名古屋から平和を発信する日を目指して≫

「なごや平和の日」制定を議論する中で、市民からは「被害者の観点だけでいいのか」「戦争がなぜ起きたのか考えるべきだ」という意見も提起されました。また高校生たちも「歴史の授業でなぜ戦争の時代をしっかり取り上げないのか」といった学校教育への不満も聞かれました。

今回「慰霊」の日ではなく「平和」の日の名称になったことは、今後名古屋が内外に向けて発信する「平和」の真の意味が問われるだけに大きな意味があります。しかし今なお世界では「平和のため」を掲げ、他国に侵略している現実が展開しています。「平和」とは、もろく都合良く使われる不思議な語句です。「なごや平和の日」の「平和」とは何を目指すものか、市民は注視していかねばなりません。

教育の本質は平和な社会を形成する人格の育成にあり、「名古屋は真の平和のための教育を推進してきたのか」とその姿勢が問われます。同時にその前提となる「教育の自由の保障」という大きな課題を「なごや平和の日」が改めて突きつけたことになります。

平和と命の観点から教科書を選び、子どもと共に平和を学び合う教育の自由を教育行政が積極的に学校現場に保障すること、これが「なごや平和の日」の本質の一つと考えます。

≪1963（昭和 38）年の名古屋平和都市宣言を読む≫

遡ること 61 年前、名古屋市は「名古屋平和都市宣言」をしています。今読むとその崇高さに驚きます。国連憲章と憲法（特に前文と戦争放棄）、核廃絶の理念まで読み取れるからです。市民はこの「名古屋平和都市宣言」を改めて認識し、この宣言の上に今回の「なごや平和の日」がセットとしてあることを肝に銘じなくてはなりません。

（以下「名古屋平和都市宣言」参照）

名古屋平和都市宣言

世界恒久の平和を希求し、子孫に恵沢を確保するのは、全人類の悲願であり、われらが戦争を永遠に放棄したのも、この人類普遍の原理に由来する。

名古屋市は、原水爆の脅威から免れ全人類の平和と幸福を熱望する全世界の人々と相より相扶けて、人類永遠の平和確立のため努力する。

右宣言する

昭和 38 年 9 月 18 日　名古屋市会

「空襲で炎上する名古屋城」（1945.5.14）

全開拓団データ公開

満蒙開拓平和記念館　三沢亜紀

27 万人と言われている満蒙開拓団。各団の人数や入植地など全体を網羅した正確なデータはありません。最も信憑性が高いのは、1950 年に当時の外務省管理局引揚課が各都道府県におこなった調査で、それを基にした在籍人数や戦後の越冬地などの概況が『満洲開拓史』に掲載されています。しかしこれも帰還団員の幹部や資料保持者がつかめないため「約 1 割が調査未完了」であり、実態は把握できないまま現在に至っています。

当館では、その『満洲開拓史』や各開拓団・義勇隊が戦後に発行した記録集など全国からの寄贈品を基に、開拓団データ一覧表作成に取り組んできました。旧満州の入植地（省・県名）、種別（開拓団・義勇隊・報国農

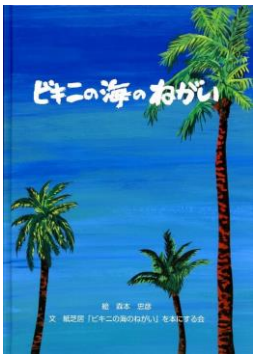
場・開拓女塾等)、入植年月日、団・中隊名、送出地（出身県市町村名)、在籍人数、死亡者数など、確認できる限りのデータを入力したものです。大小さまざまな種類の開拓団があり、現在までに 1,000 以上の団の存在が確認できました。

このデータを開館 12 年目スタートとなった 4 月 25 日にホームページ上で公開しました。
https://www.manmoukinenkan.com/data/　こちらからダウンロードできます。エクセルデータですので検索や抽出、並べ替えなども可能です。今後も新しい情報が分かり次第、加筆・修正し、随時更新していきます。満蒙開拓をテーマにした日本で唯一の資料館として、このような資料の作成、情報発信が期待されているものと思います。

出版物

絵本『ビキニの海のねがい』

文　紙芝居「ビキニの海のねがい」を本にする会
絵　森本忠彦
英訳: Mac. B. Gill/ 翻訳アドバイザー：山根和代
南の風社
2024 年 3 月 1 日



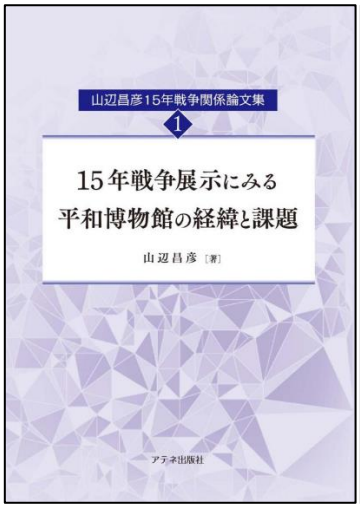
『ビキニの海のねがい』は、紙芝居「ビキニの海のねがい」を本にする会が制作したものである。1954 年のビキニ環礁で被ばくしたのは、第五福竜丸の船員だけではなく高知のマグロ漁船も被災していた。被ばくの事実を無きものとせず、平和への願いを伝えたいという思いで、日本語だけでなく、英語訳も付けられている。国内だけでなく、海外の読者にとって、学ぶことが多い内容である。

Teruhisa Horio, Thoughts, Ideologies and Structures of Modern Education: Japan and the West.
University of Tokyo Press. 2024
（堀尾輝久著『近代教育の思想・思想・構造: 日本と西洋』：東京大学出版会.2024）
『現代教育の思想と構造』（1971 年）ほか、日本と世界の教育を考える重要論考を英訳。

地球憲章など近年の動向を表す補章も付し、世界の教育思想史上の重要リーディングとして発信する書。

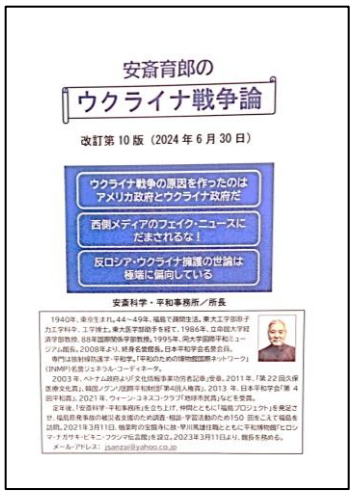
山辺昌彦著 15 年戦争関係論文集

［１］『15 年戦争展示にみる平和博物館の経緯と課題』
［２］『東京空襲の諸問題』
［３］『戦中戦後の文化活動と日本軍兵士の諸問題』
アテネ出版社　2024



『安斎育郎のウクライナ戦争論』

（改訂第 10 版）
2024 年 6 月 30 日発行
108 頁、フルカラー、図版満載、300 円＋送料
入手希望の方は、下記の安斎のメールアドレスに郵便番号、住所、名前、冊数、電話番号を送って下さい。jsanzai@yahoo.co.jp



論　考

「慰安婦」裁判の新しい流れ～「主権免除」をめぐって

池田恵理子　アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」（wam）

■皇国史観の教科書が検定合格？！

「慰安婦」問題に取り組んでいる首都圏の市民団体が毎月第 3 水曜日の正午過ぎ、新宿駅西口で行っている「水曜行動」は、この 7 月で 78 回になります。毎月同じ場所でスピーチをして通行人にチラシを配っていると日本社会の“空気”が伝わってきますが、このところ痛感するのは「慰安婦」問題への無関心です。チラシや各国語のパネルを見て質問をしてくるのは外国人観光客や留学生たちばかりで、大半の日本人は「『慰安婦』問題はもう解決したんじゃないの？」と言いたげに、チラシも受け取らず通り過ぎていきます。

しかも冒頭のスピーチではこの 1 カ月の出来事として、「皇国史観を掲げる令和書籍（代表・竹田恒泰）の中学歴史教科書が、ついに文科省の検定を通ってしまいました」などと語らなければならないのですから、怒りと無念さがつのります。

教科書から「慰安婦」記述をなくそうとする歴史修正主義の動きは 1990 年代後半から続いてきましたが、「朝鮮の女性を強制連行した事実はない」「彼女たちは報酬をもらって働いていた」などのフェイク情報満載の教科書を検定合格にした文科省の判断も、実に深刻です。

■韓国の「慰安婦」裁判で「主権免除」を否定の判決

こうした現状をふまえると、昨年 11 月に韓国のソウル高等裁判所が「慰安婦」被害者や遺族が日本政府を訴えた第二次「慰安婦」訴訟で、原告勝訴の判決を下したことは久々に明るい画期的なニュースでした。2021 年 4 月の一審のソウル地裁では、「国家は他国の裁判権に服さない」とする国際慣習法上の「主権免除」を適用して、原告の訴えは却下されています。ところが高裁では、日本軍「慰安婦」のような反人道的犯罪行為の場合、普遍的な人権尊重の原則を優先させて「主権免除」を適用せず、日本政府に 1 人あたり約 2 億ウォン（約 2300 万円）を賠償するよう命じたのです。これに対して日本政府は「国際法違反」「極めて遺憾」として強く抗議しましたが上告はしなかったため、判決は 12 月 9 日に確定しました。

確かに「主権免除」は国際法では“原則”とされてきましたが、最近では絶対的なものではなくなっています。他国の政権下で人権を蹂躙された個人は、自国の裁判によって救済される権利が認められるようになってきたのです。すでに 2021 年 1 月の第一次「慰安婦」訴訟でソウル中央地裁は「主権免除」を適用せず、原告勝訴の判決が確定しています。これを日本政府は「国際法上ありえない判断」と非難しましたが、世界を見渡すとイタリアやギリシヤ、ブラジル、ウクライナ、イギリスなどで、日本政府が言うところの「あり得ない判断」が次々と出ています。

ブラジルの最高裁判所は、第二次世界大戦中にドイツの潜水艦がブラジル漁船を撃沈した事件の訴訟で、ドイツの「主権免除」をきっぱり否定しました。ウクライナの最高裁も、2014 年のロシア侵攻の際のウクライナ人戦死者遺族がロシアを訴えた裁判で、ロシアの「主権免除」を否定しています。イギリスでもサウジアラビアのエージェントによって負傷したイギリスの人権活動家がサウジアラビアを訴えた事件で、サウジアラビアの「主権免除」を退けました。

■日本軍被害者と遺族に残された　今後の可能性

日本の裁判所でアジア各国の「慰安婦」被害者が日本政府を訴えた 10 件の民事訴訟では、2010 年までに全ての請求が棄却されました。この敗訴で各国の原告たちは怒りと無念さに苛まれましたが、被害国の裁判所でも日本政府を提訴できるなら、今後に可能性は残されています。

今回勝訴した原告の一人・李容珠（イ・ヨンス）さんは記者会見で両手に花束を抱えながら、「長い裁判だったが、やっとこういう判決が出た。被害者が一人でも生きている間に、日本は心から謝罪し、賠償してほしい」と誇らかに語りました。年が明けた 1 月 25 日には、日本の「慰安婦」支援団体がこの裁判を闘った韓国の弁護士

10 人を招き、判決の意義を考えるシンポジウムを開催し、5 月 10 日には「日韓プラットフォーム」のセミナーで、韓国の「正義記憶連帯」のイ・ナヨン理事長と wam の渡辺美奈さんが「勝訴判決の意味と課題」を語り合っています。

そして 4 月には、中国山西省の性暴力被害者の遺族が中国の裁判所に日本政府を提訴した、という知らせが届きました。ビッグ・ニュースです。中国の被害女性たちが日本の裁判所に提訴した時には、その娘や息子たちは母たちの後ろでひっそりと見守って支援するのが精いっぱいでした。その遺族たちが立ち上がり、すでに故人となった母たちの思いを引き継いで裁判をするというのです。中国人被害者の裁判支援を行ってきた日本の市民団体「山西省・明らかにする会」はこれに感動して、早速、提訴を支持する声明を発表しました。

日本軍による性暴力被害者や遺族が、最後の手段として韓国や中国の裁判所に訴えることの勇気と決断には圧倒されます。この切実な思いに応えるためには、加害国・日本に生まれた私たちは、頑なに自国の戦争責任・植民地支配責任を認めようとしない日本政府を変えていくしかないのだと思います。

海外のニュース

戦争の時代における平和教育：記憶と希望の空間としてのウクライナ、リヴネの平和博物館

オクサナ・マルチュク、リリア・メルニチュク、タマラ・パグタ、ヤニナ・ポチェニク、アグニェシュカ・ベイツ、イェシド・パエズ＆アン・パルフィット（Oksana Marchuk, Liliia Melnychuk, Tamara Paguta, Yanina Pocheniuk, Agnieszka Bates, Yesid Paez & Anne Parfitt）(2024) “Peace education in a time of war: the Museum of Peace in Rivne, Ukraine as a space of memory making and hope”
Journal of Peace Education, 21:1, 16-33, DOI: 10.1080/17400201.2023.2276417 この記事へのリンクは：https://doi.org/10.1080/17400201.2023.2276417。

要旨を紹介します。（山根和代：Journal of Peace Education 編集委員）

平和博物館は、来館者にインフォーマル教育やノンフォーマル教育を提供することで、平和教育において重要な役割を果たしている。想起の場である平和博物館は、体験学習と内省のための豊かな教育的空間である。ウクライナのリヴネにある平和博物館は、平和、寛容、国家間の調和の精神を、子どもたちに教育することを活動の中心に据えている。平和博物館は通常、紛争後の平和な時代に平和構築や記憶作りに取り組むが、この記事では戦争中のリヴネ平和博物館の活動について報告する。戦時下においては、軍事的侵略に直面しながら平和構築に携わることや、激しい紛争によって記憶があまりに即時的で苦痛を伴うものとなったときに、記憶作りの作業を持続させることについて、難しい問題が生じる。論文の中で説明されているように、リヴネの博物館における平和構築の取り組みが再び活発化していることは、戦時下においては、戦争に対抗して平和を促進することがより重要であることを示している。毎年恒例のイベント「I Vote for Peace」（私は平和のために投票する）を通じて、博物館は世界的な寛容と平和維持に取り組む学校のネットワークを構築するとともに、ウクライナの子どもたちに自分たちの経験や平和な未来への希望を語る場を提供しようとしている。

平和のオアシス村

ワハト・アル・サラーム-ネヴェ・シャローム(Wahat al-Salam – Neve Shalom）はアラビア語とヘブライ語で平和のオアシスを意味する。エルサレムとテルアビブ・ヤッファの中間に位置するこの共同体は、1970 年にブルーノ・フサール神父によってラトルン修道院の土地に設立された。共同体は、平等、相互尊重、パートナーシップのモデルであり、人種差別や差別の既存のパターン、そして継続的な紛争に挑戦している。コミュニティはその理想に基づいて教育機関を設立し、社会的・政治的変革に焦点を当てた活動を行っている。村のメンバーの多くは、平和、正義、和解のプロジェクトに携わっている。人口は 70 世帯で、今後 150 世帯まで増える予定。（https://wasns.org/）

次は、この HP に載っていた記事の紹介です。

ギャラリーと戦争

オアシス・アート・ギャラリーの学芸員、ディアナ・シャロウフィ＝リゼック

2024 年 1 月 3 日

2023 年 10 月、私は美術品を持ち主に返す作業をしていた。「私たちと彼ら」展はとても有意義で力強いものであったため、空襲シェルターの近くにいなければならず、精神的に大変だった。私は、次の展覧会のために、新しい作品を選ぶ学びの旅に出なければならなかった。突然、劇的な出来事が私たちに降りかかった。私たちが属している政治的対立における一連の出来事のうち、巨大なものであった。その出来事は激化するばかりで、いまだに平常に戻ることができていない。

あの日から数カ月が過ぎたが、それは長い年月のように感じられ、私も他の人たちと同じように、起こったこと、起こっていることにまだショックを受けている。たくさんの涙、疑問、不安。死と破壊が押し寄せ、私は自分自身、家と家族、村、そしてもちろんギャラリーの面倒を見ようとしている。

ショックの最初の 1 カ月は、強い不安を抱えながらギャラリーに足を運んだ。少しずつ自分のために努力した。アートスタジオを訪れ、絵で欲求不満だった自分を表現し始めた。アーティストに何が起こっているのか、またアーティストがどのように自分自身を表現しているのか-沈黙、言葉、芸術-それぞれが内なる悲しみと関係しているのかを知るために、インターネットサーフィンを始めた。

例えば、ガザ国境からガザ地区にかけて、生きているアーティストの名前、亡くなったアーティストの名前、被害を受けたり破壊されたりしたギャラリーなどの情報を集め始めた。

そして、イスラエル周辺のパレスチナ人やユダヤ人はどうなのか？私は、2 つの民族のアーティストの間に完全な断絶があることを発見した。軍事政権に戻った結果、パレスチナのアーティストたちの自己表現に対する大きな恐れと警戒心を感じるようになった。私は、ユダヤ人アーティストたちから想像もしなかった態度や表現を発見した。"私の友人はどこにいるんだ！" 私は非常に苦しんで叫んだ。もちろん、何人かは見つけた。そして、制限と緊張が緩和されれば、彼らが自分自身に戻るだろうと期待して、アーティストたちと連絡を取り続けた。

次の展覧会

悲惨な戦争が続いたため、展覧会の内容や名称は何度も延期・変更されたが、戦争がアーティストや彼らの作品に与えた影響を表現する展覧会を開催することに合意した。それでもギャラリーは存続すると、私は確信

している。新しい展覧会がいつ開催されるかはわからない。ユダヤ人だけの展覧会やパレスチナ人だけの展覧会を開催することもできるかもしれないが、今はその時期ではないという思いが根底にある。このような信じられないほど複雑な状況に置かれている以上、私たちはこれからも共に歩んでいかなければならない。

より深く掘り下げる

私たちの周りは混沌としていて、それは私たち全員にとって衝撃的であったし、今もそうである。しかし私は、私たちが経験する悲しみや激しい痛みも含め、すべての経験には意味があると信じている。先送りのために先送りするつもりはない。新たな、進行する状況に適応していきたい。作品を囲んで、あるいは自分自身の周りでの出会いは、オープンな議論を可能にし、新たな気付きと好奇心の窓を開いてくれる。正気を保つ責任は私たち全員にあり、私の責任は望ましい結果を達成するためのパイプ役になることだ。私は諦めない。しかし、賢く行動しなければならない。私はまだこの重要なプロジェクトに情熱を持っている。

このギャラリーは、他の人々のためになることを意図して始まった。今、このギャラリーを存続させ、他の人々に与えるこの重要な手段を継続させるためには、生き残り、修復が必要なのだ。

https://wasns.org/the-gallery-and-the-war/

なお長い記事なので、途中で省略している部分があります。

（山根和代）

ガザの学者･大学関係者による世界への公開書簡

2024 年 5 月 31 日

下記のようなガザの学者・大学関係者による世界への書簡が、公開されたので紹介します。博物館の破壊にも言及しています。（山根和代）

私たちの家族、同僚、学生は暗殺され、私たちは再び家を失い、1947 年と 1948 年のシオニスト武装勢力による虐殺と集団追放の際の両親や祖父母の経験を追体験している。

大学、学校、病院、図書館、博物館、文化センターなど、何世代にもわたって私たちの同胞が築いてきた市民基盤は、この意図的なナクバ（訳者注：暴力的な強制移住と土地、財産、持ち物の剥奪によるパレスチナ人の民族浄化）の継続によって廃墟と化している。私たちの教育インフラを意図的に標的にすることは、ガザを居住不能にし、私たちの社会の知的・文化的基盤を侵食しようとする露骨な試みである。しかし、私たちはこのような行為によって、私たちの中に燃える知識と回復力の炎が消えるのを拒む。

私たちはまた、世界中のすべての大学や同僚が、私たちの大学と直接的に学術支援活動をするよう強く求める。単に現在の学生を支援するためだけではなく、高等教育システムの長期的な回復力と持続可能性を確保するためにも、ガザの教育機関を再開することが緊急に必要であることを強調する。教育は、単に知識を授けるための手段ではなく、私たちの存在を支える重要な柱であり、パレスチナの人々にとっての希望の光なのである。

私たちは、私たちの民族の未来のために、そして私たちがガザのパレスチナの土地にとどまることができるように、私たちの大学を守り、維持しようとする私たちの揺るぎない試みを支援するよう、本国および国際的な仲間たちに呼びかける。私たちはこれらの大学をテントから建てた。そして、テントから、友人たちの支援を得て、私たちは再び大学を再建する。

詳しくは下記のリンクをご覧ください。**（アルジャジーラより一部転載）**
https://www.aljazeera.com/opinions/2024/5/29/open-letter-by-gaza-academics-and-university-administrators-to-the-world

映画『オッペンハイマー』で描かれなかったこと

山根和代

映画『オッペンハイマー』が日本で上映されたが、被爆者の苦しみ、そして原爆製造を拒否した科学者のジョセフ・ロートブラットは、描かれなかった。イギリスの平和博物館（８月１０日に新しい場所で開館の予定）のブログで興味深い記事があるので、紹介します。

オッペンハイマーと反核運動

2023 年 7 月 28 日、ブログ 2023 年 9 月 21 日

今月公開された映画『オッペンハイマー』は、核兵器やそれが最初に開発された経緯、そしてこのプロジェクトに携わった人々が直面した道徳的ジレンマについて、多くの人々の話題に火をつけた。このブログでは、映画で描かれたストーリーが、平和博物館のコレクションとどのようにリンクしているのか、また、世界中で核軍縮に取り組んでいる現代の平和活動家たちの反応について紹介する。

J・ロバート・オッペンハイマーは、主にマンハッタン計画における彼の仕事に焦点を当てた新作映画の中心となる科学者である。1942 年から 1946 年まで行われたアメリカのこのプロジェクトでは、科学者チームが 2 種類の原子爆弾を開発し、そのうちの 1 つは 1945 年 7 月にニューメキシコで実験された。この原爆は、1 ヵ月も経たないうちに広島と長崎の原爆投下で使用されることになり、この出来事についてオッペンハイマーはトルーマン大統領に「自分の手に血が流れている」と感じたと語っている。この原爆投下により、推定 21 万 4 千人の市民が死亡し、その後数年間でさらに数千人が放射線病により死亡した。

核開発の継続に反対し、共産党と過去につながりがあったため、1954 年に裁判にかけられ、政府で働く職を失ったが、核兵器に対するオッペンハイマーの懸念は影響を与えた。彼がアイゼンハワー大統領に与えた影響は、1953 年の「平和のための原子」演説の中に見ることができる。この演説では、核研究を戦争ではなく平和的発展のために利用することの重要性が強調された。この演説のメッセージは本心からのものではなかったと主張する人もいるが、「平和のための原子」というフレーズは、当コレクションのバッジのいくつかに見られるように、その後の数年間、平和活動家たちによって使用された。

マンハッタン計画で映画化されなかった人物の一人に、ジョセフ・ロートブラット教授がいる。ロートブラットは、原子爆弾がもたらす潜在的な破壊力と、ナチス・ドイツが同様の兵器を開発していなかったという事実に気づき、プロジェクトを離れた唯一の科学者だった。彼は、科学と世界問題に関するパグウォッシュ会議の設立など、核兵器廃絶のためのキャンペーンに残りの人生を費やした。パグウォッシュでの功績により、1995 年にノーベル平和賞を受賞。2005 年の彼の死去に伴い、平和博物館は、彼の眼鏡、タイプライター、この電卓など、多くの私物を譲り受けた。

ジョセフ・ロートブラットの遺品

この映画が公開されたことで、平和団体からはさまざまな反応があった。原爆実験と配備がもたらした真の

恐怖を描けていないという意見もあれば、今日の軍縮の重要性を強調する好機だという意見もあった。この映画の公開を機に、核軍縮をめぐる議論を始めようと躍起になっている団体のひとつが「非核自治体」である。NFLA（非核自治体）の運営委員長であるローレンス・オニール評議員は、最近のメディアリリースで次のように述べている：

「核兵器という恐ろしく強大な脅威を前にして、個人や議会でさえ、その脅威に対して無力だと感じることは理解できる。オッペンハイマーや、アルベルト・アインシュタイン、ジョセフ・ロートブラットなど、原爆開発の一翼を担った多くの著名な科学者たちでさえ、原爆を忌み嫌い、代わりに軍縮に身を捧げるようになった。」

この映画によって、オッペンハイマーは、彼の業績やその後の核兵器反対についてよく知らなかったかもしれない新しい世代に、その名を知られるようになったのは確かである。その一方で、核軍縮キャンペーンなどからは、この映画が核兵器廃絶プロジェクトに与える悪影響を描けていないという批判にさらされている。CND ロンドン支部の共同議長であるキャロル・ターナー氏は述べている。

この映画の全体的なインパクトはアンバランスである。人々は、それがいかにエキサイティングなプロセスであったかを考えながら劇場を後にするのであって、『神よ、これは恐ろしい大量破壊兵器であり、今日何が起こったかを見てください』と考えるのではない」。

オッペンハイマーの懸念は、米国がより強力な核兵器の開発を続ければ、軍拡競争がエスカレートするのではないかというものだった。1950 年代以降、世界各国の核兵器保有量は大幅に増加し、現在では 9 カ国が核兵器を保有している。これらの核兵器は、マンハッタン計画で開発された核兵器と何らかの関係はあるものの、オッペンハイマーと彼の同僚科学者たちによって開発された核兵器よりもはるかに強力で、広島に投下された原爆の 80 倍もの威力を持つものもある。

平和博物館の目的のひとつは、観客に暴力や戦争体験について考えさせ、過去の平和運動家や現在世界をより良い場所にするために活動している人々の物語を伝えることである。ジョセフ・ロートブラットの私物を含む当館の収蔵品の一部は、こちらのコレクションサイトでご覧いただけます。
https://www.peacemuseum.org.uk/oppenheimer-and-the-anti-nuclear-movement/#

2020 平和のオブジェ：ジョセフ・ロートブラットのタイプライター

December 25, 2020　　ブログ 2023 年 9 月 22 日

平和博物館は、「未来の平和博物館」を建設するためのクラウドファンディング・キャンペーンを開始した。このキャンペーンの一環として、20 人のアンバサダーが当館の収蔵品の中から 1 点を選び、平和の歴史におけるその重要性と、なぜそれが自分にとって重要なのかを語っている。 ピーター・ヴァン・デン・デュンゲン管理委員は、ジョセフ・ロートブラットのタイプライターについて、次のように述べている。

「2005 年に彼が亡くなった後、博物館に寄贈された私物のひとつである。彼は核物理学者で、第二次世界大戦中、ロスアラモス（米国ネバダ州）のマンハッタン計画に参加し、世界初の原子爆弾を開発した。ナチス・ドイツがそのような兵器を開発していないことが明らかになったとき、彼は、このような新しく恐ろしい死と破壊の道具がない方が世界のためになると確信し、その場を去ることを決断した唯一の科学者であった。 ロートブラットは、核兵器と戦争の廃絶を求める世界的キャンペーンのリーダーとなった。彼は重要なラッセル・アインシュタイン宣言（1955 年）に署名し、科学と国際問題に関するパグウォッシュ会議の中心人物となった。1995 年、広島と長崎の原爆破壊 50 周年に、ロートブラットとパグウォッシュはその年のノーベル平和賞を分かち合った。ロンドン中心部にある大英博物館の向かいにあるパグウォッシュのオフィスからは、彼の科学的な出版物や大衆へのアピールが絶え間なく発信されていた。タイプライターは、ペンは剣よりも強しとい

う彼の揺るぎない信念の象徴である。」
https://www.peacemuseum.org.uk/2020-objects-of-peace-joseph-rotblat-typewriter/

日系米人のアートと平和のための博物館

山根和代

「どんなに長い道のりでも、平和を再考して」と題した原田真千子氏の芸術作品に関する記事の一部を紹介します。戦争体験のない芸術家の作品は、興味深いです。

ハイパーアラーギックのエミリー・ホール・トレメイン・ジャーナリズム・フェローシップの一環として、原田真千子氏は、日本人および日系アメリカ人のアーティストが、第二次世界大戦中の米国強制収容所の痛ましい遺産にどのように取り組んでいるかを検証した。

来年は第二次世界大戦終結 80 周年にあたるが、世界はいまだ戦争と不当な暴力が横行し、不透明な状況に置かれている。アメリカの日系人強制収容所は、アメリカ本土にあった第二次世界大戦の最も非人道的な結果であった。多くの日本人や日系人コミュニティにとって、強制収容所にまつわる痛みはいまだに忘れられない。この問題の核心は、移民排斥、人種差別、外国人排斥、同化の強要に起因する今日の世界的な対立に重大な懸念を投げかけている。

日本人として、私は日本が戦争に参加した帝国主義的な衝動を自覚している。あの悲惨な戦争の後遺症から、日本の一般市民は、人権と平和主義を継続的に主張する責任を強く感じるようになった。RE/IMAGINE PEACE は、様々な物語、視点、想像力を通して歴史的な出来事を見るよう読者を誘い、この歴史のより包括的なイメージを提供する。こうした芸術的取り組みは、他者への理解を深め、共感を得る助けとなる。他者の痛みを完全に理解することは不可能かもしれないが、それでも想像し共感することで、私たちは平和に近づくことができると私は信じている。 このオンライン展覧会では、第二次世界大戦中のアメリカの強制収容所の歴史を取り上げた 5 人の現代日本人・日系アメリカ人アーティストを紹介する。

新しい人生

日本からアメリカへの移民は、日本の明治時代の幕開けである 1868 年に始まった。当初、多くの日本人は新たな機会を求めて、まだ併合されていなかったハワイに移住し、後に西海岸に移住した。日本人移民の数が増えるにつれ、彼らが経験する差別のレベルも上がっていった。1924 年の移民法制定以前には、約 20 万人の日本人がハワイに移住した。約 18 万人がアメリカ本土に移住し、カリフォルニア州サンフランシスコ港とワシントン州タコマ港に上陸した。

Carrie Yamaoka, "Archipelagoes panel #15A" (1991-1994/2019), chemically altered gelatin silver print, 20 x 16 inches (courtesy of the artist)

ハートマウンテンは第二次世界大戦中、ワイオミング州にあった日系人強制収容所。もともとはアメリカ先住民のクロウ族が、山がバッファローの心臓に似ていると言って「ハート・マウンテン」と名付けた。私の叔母の一人と叔父の二人が収容された。Carrie Yamaoka

現在進行形の闘い

このオンライン展で紹介される作品は、収容所時代を目撃していない世代のアーティストたちによって制作されたものだ。（下線は訳者による。）彼らは限られた記憶やアーカイブを読み解き、想像力で補いながら、困難な歴史に立ち向かっている。過去を振り返る現代アーティストの視点を通して時間を横断する体験は、当事者の立場からは見えなかった事実やつながりを可視化し、現在から未来を予見する契機となる。 この鑑賞体験が読者の記憶に残り、80 年前と同じように、最終的に戦争へと帰結する現在の切迫した状況を踏まえて、平和へのアプローチを再考する契機となることが期待される。

訳者・編集者注：他にも作品はあるが、スペースの都合上、ここでは紹介していない。
https://hyperallergic.com/876231/re-imagine-peace-no-matter-how-long-the-path/ をご覧ください。
ワイオミング州にはハートマウンテン解説センターがあります。 https://www.heartmountain.org/
なおこれは『世界における平和のための博物館』(2020)で紹介されています。

"Joyful Connections" by Pegge Patten 2024